

令和6年度  
全国学力・学習状況調査の結果



長門市教育委員会学校教育課

## 1 調査の概要

### (1) 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査期日 令和6年4月18日

(3) 調査対象 小学校6年生、中学校3年生

### (4) 調査内容

- ①教科に関する調査（小学校…国語、算数 中学校…国語、数学）
- ②生活習慣や学習環境等に関する質問紙

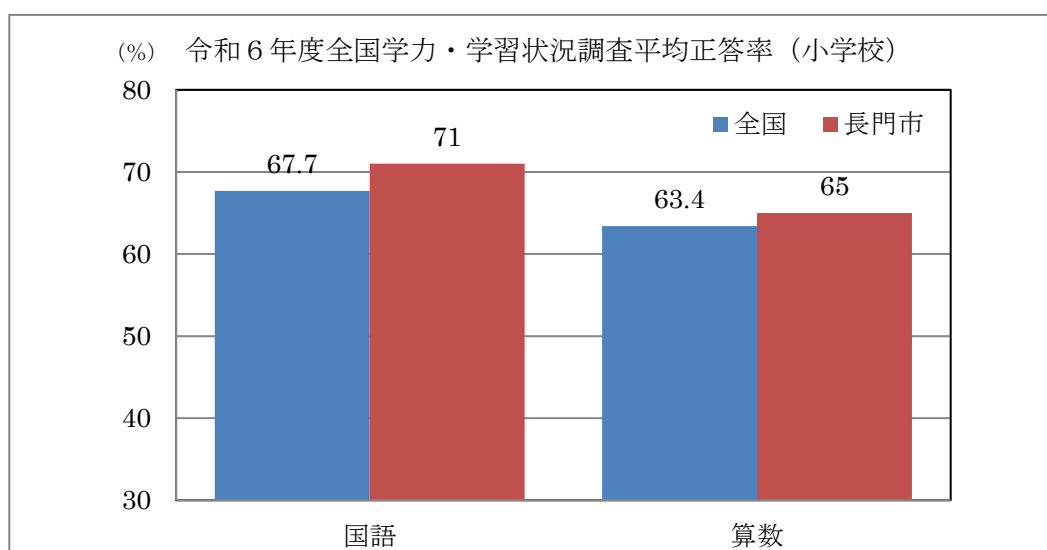
## 2 学力調査の結果 (○：比較的良好にできている点 ●：課題がある点)

### (1) 小学校

|    | 平均正答数（問） |          | 平均正答率（％） |     |
|----|----------|----------|----------|-----|
|    | 全国       | 長門市      | 全国       | 長門市 |
| 国語 | 9.5／14問  | 9.9／14問  | 67.7     | 71  |
| 算数 | 10.1／16問 | 10.3／16問 | 63.4     | 65  |

### ※学力調査結果についてのグラフの見方

学力調査結果は、全国と長門市の平均正答率を示している。  
平成29年度から、県や市の平均正答率は整数値で提供されている。



国語科においては、全国平均を約3ポイント上回った。

令和5年度、算数科においては全国平均を下回っていたが、今年度は全国平均を約1.5ポイント上回った。

### 【国語科】

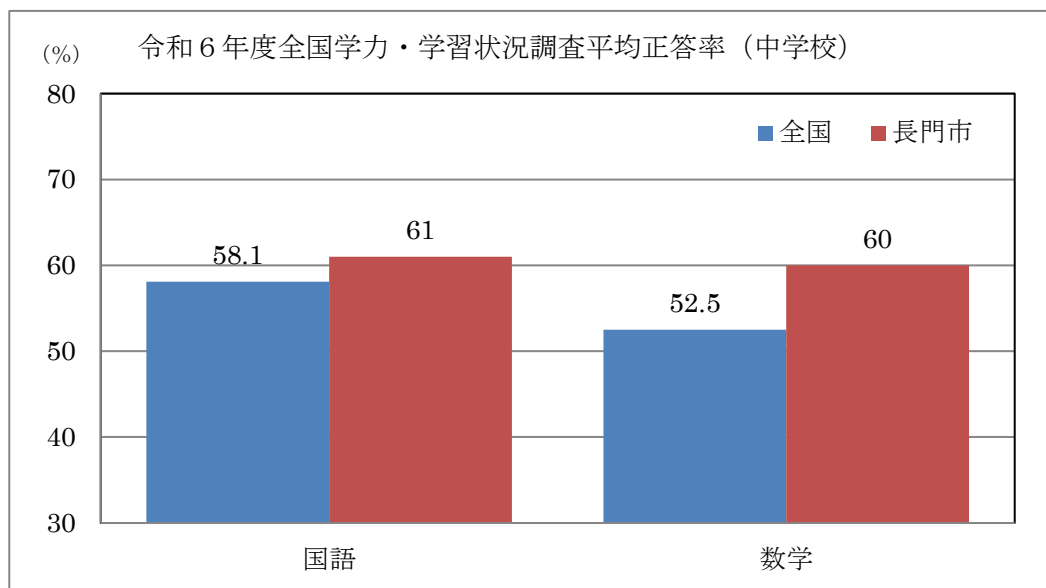
- 日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付くこと。
- 話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと。
- 人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。

### 【算数科】

- 直方体の見取り図について理解し、かくこと。
- 円グラフの特徴を理解し、割合を読み取ること。
- 道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述すること。（速さの意味理解）
- 除数が小数である場合の除法の計算をすること。

### (2) 中学校

|    | 平均正答数（問） |          | 平均正答率（％） |     |
|----|----------|----------|----------|-----|
|    | 全国       | 長門市      | 全国       | 長門市 |
| 国語 | 8.7／15 問 | 9.1／15 問 | 58.1     | 61  |
| 数学 | 8.4／16 問 | 9.5／16 問 | 52.5     | 60  |



平成30年度の調査から、全ての教科において、全国平均を上回っている。  
令和6年度の調査においても、国語、数学において、全国平均を上回った。特に数学については、全国平均を7.5ポイント上回った。

### 【国語科】

- 文章の全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係を捉えること。
- 意見と根拠など情報と情報との関係について理解すること。
- 資料を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように話すこと。

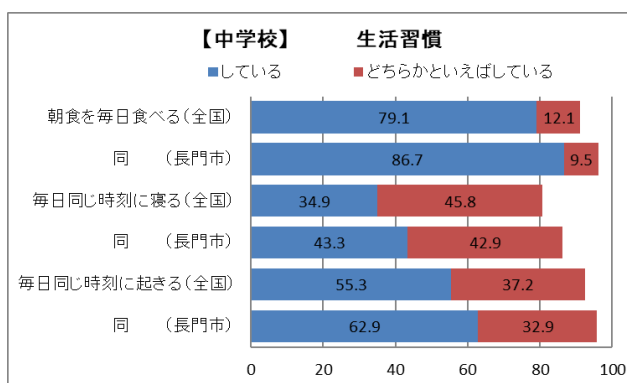
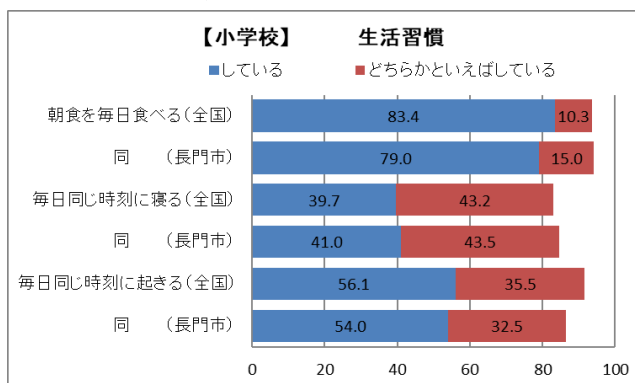
## 【数学科】

- 簡単な場合について、確率を求めること。
- 一次関数について、式とグラフの特徴を関連付けて理解すること。
- 与えられたデータから最頻値を求めること。

## 3 児童・生徒質問紙集計結果

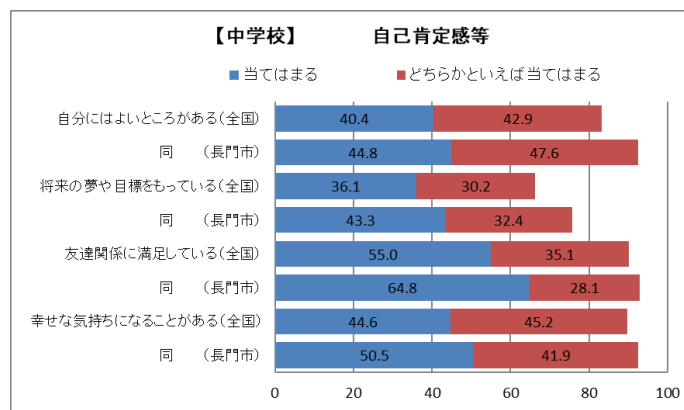
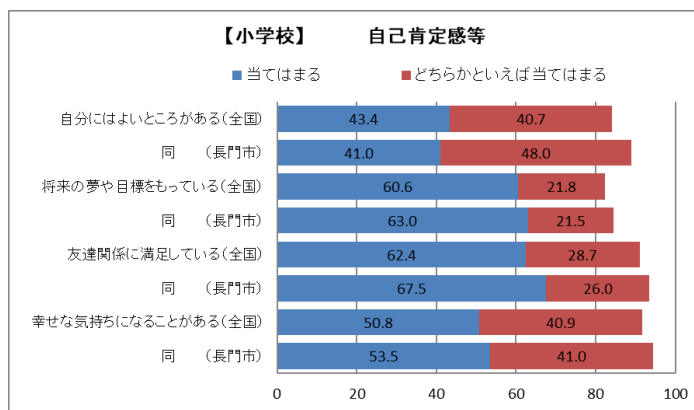
(○：よい点 ●：課題がある点)

### (1) 生活習慣など

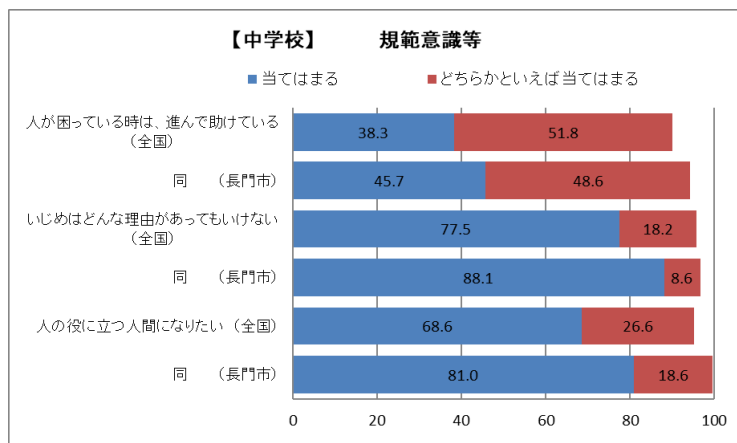
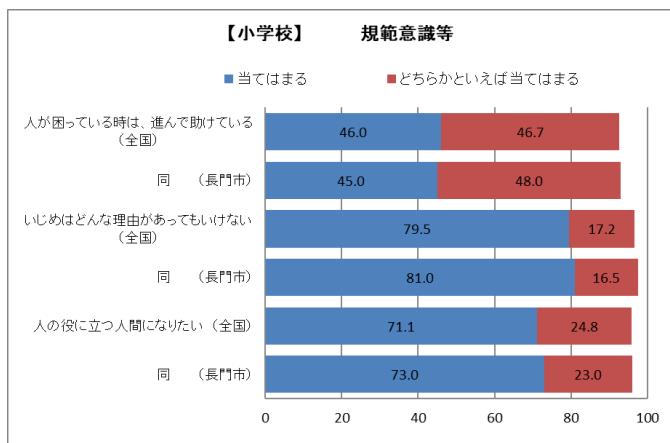


- 毎日同じ時刻に寝る、毎日朝食を食べると回答した児童生徒の割合は、全国と比べて高い。
- 小学校において、毎日同じ時刻に起きると回答した児童生徒の割合は、全国と比べて低い。

### (2) 意識や経験など

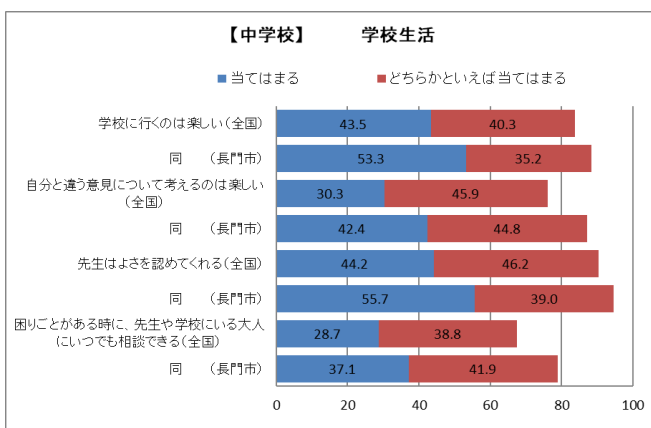
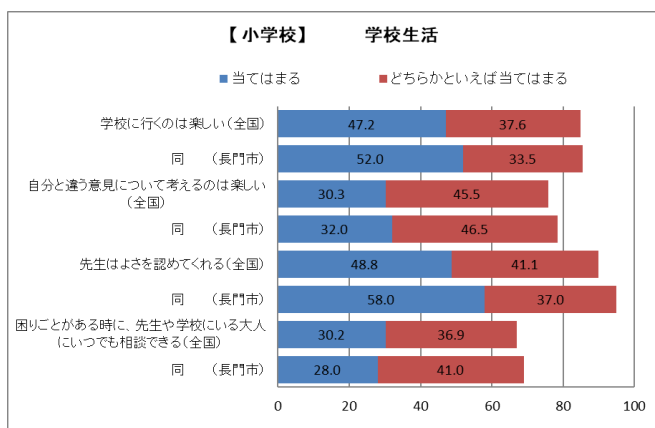


- 「自分にはよいところがあると思う」と肯定的に回答した児童生徒の割合は、全国と比べて高い。
- 「将来の夢や目標をもっている」と回答した児童生徒の割合は、全国と比べて高い。



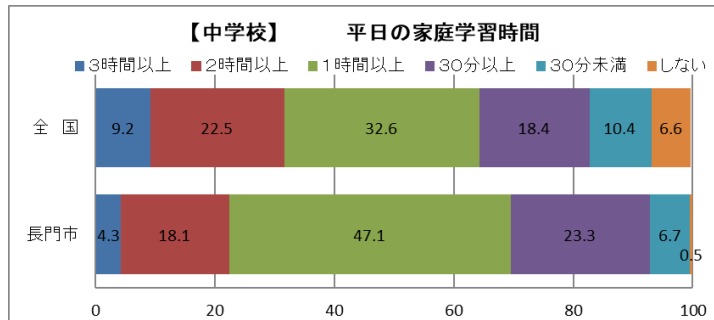
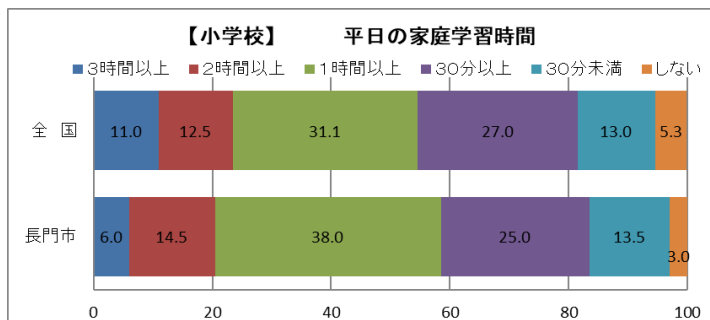
- 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」と回答した児童生徒の割合は、全国と比べて高い。
- 「人が困っている時は、進んで助けている」、「人の役に立つ人間になりたいと思う」と回答した児童生徒の割合は、全国と比べて高い。

### (3) 学校生活など



- 「学校に行くのは楽しい」と回答した児童生徒の割合は、全国と比べて高い。
- 「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う」「困りごとがある時に、先生や学校にいつでも相談できる」と回答した児童生徒の割合は、全国と比べて高い。

### (4) 家庭学習

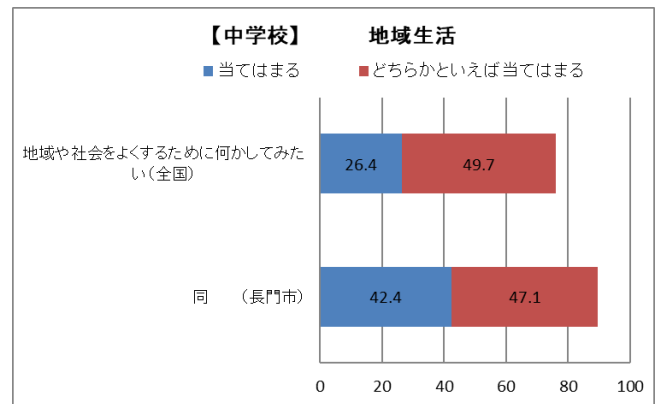
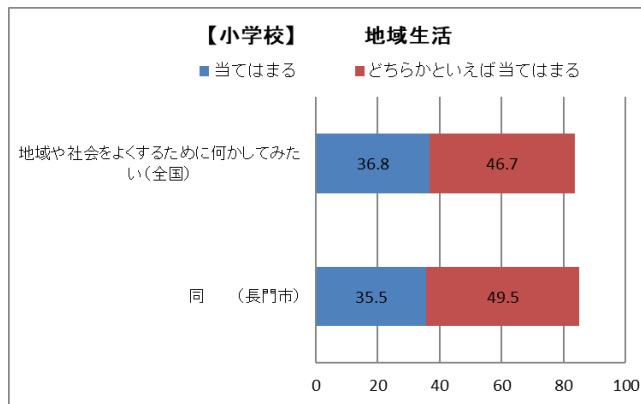


※学校の授業時間以外の1日当たりの勉強時間（学習塾、家庭教師、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）

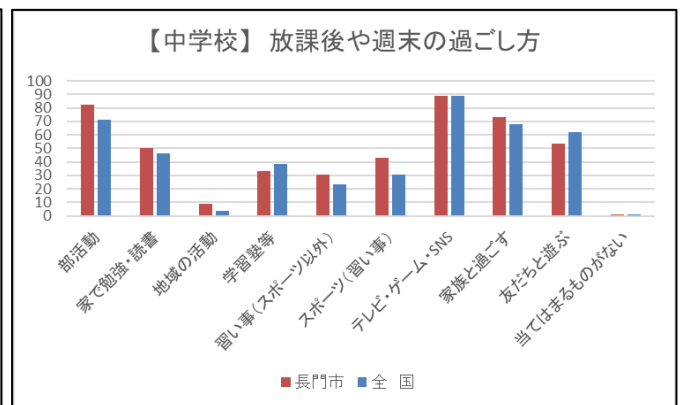
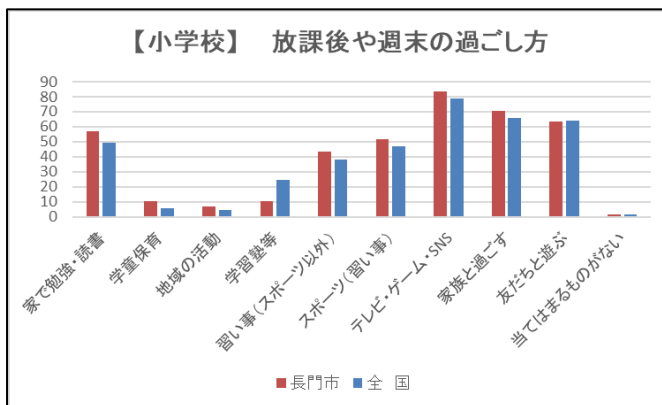
- 中学校では、平日「1時間以上学習する」と回答した生徒の割合が前年度より増加した。

- 小学校では、平日「30分より少ない」と回答した児童の割合が、前年度よりも増加した。

## (5) 地域や社会との関わり・地域での過ごし方

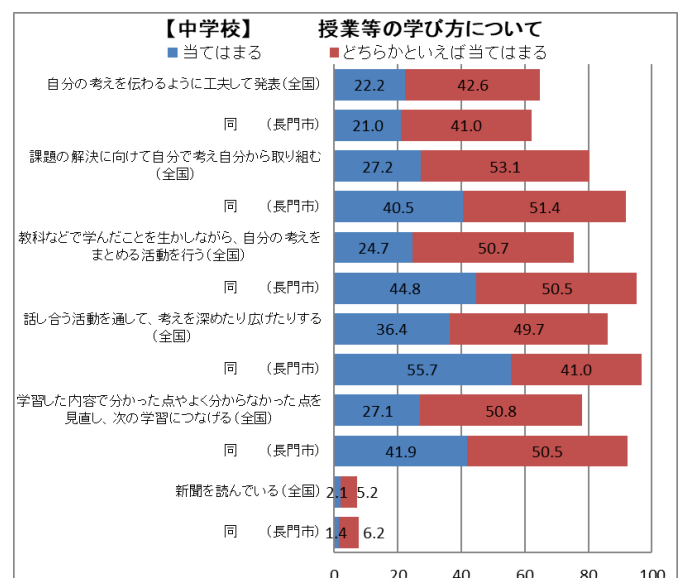
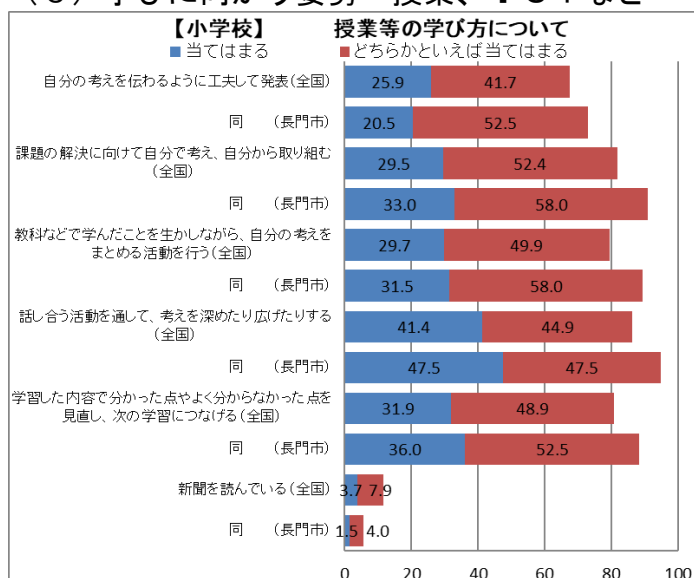


- 「地域や社会をよくするために何かしてみたい」と回答した児童生徒の割合は、全国と比べて高い。

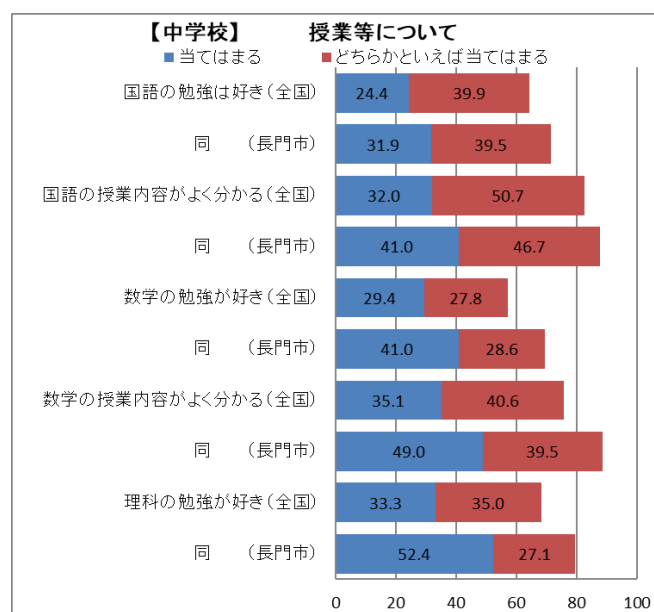
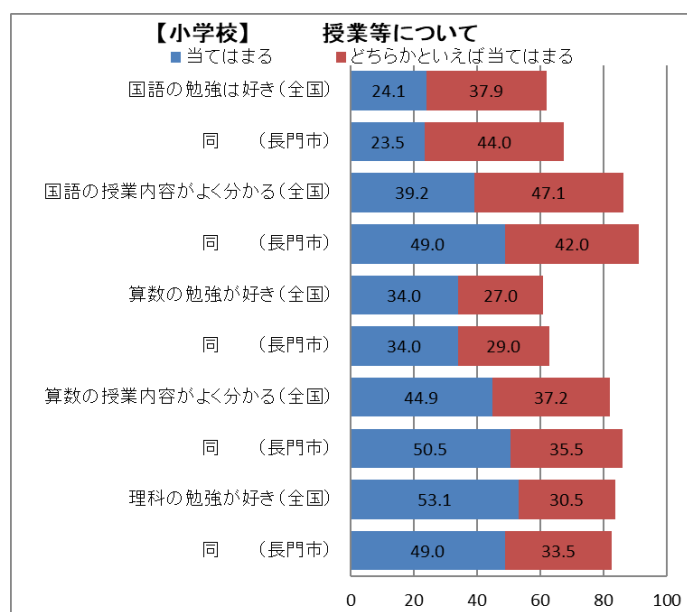


- ※ 小学校では、放課後や週末にテレビ、ゲーム SNS を利用する児童の割合が、全国と比べて高い。
- ※ 中学校では、放課後や週末に部活動をして過ごす生徒の割合が、全国と比べて高い。
- ※ 放課後や週末に地域の活動に参加している児童生徒の割合は、全国と比べて高い。

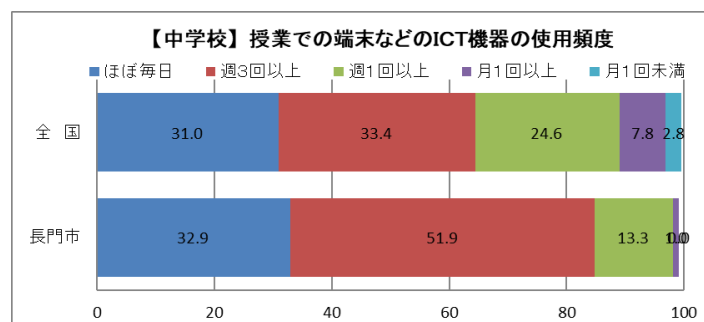
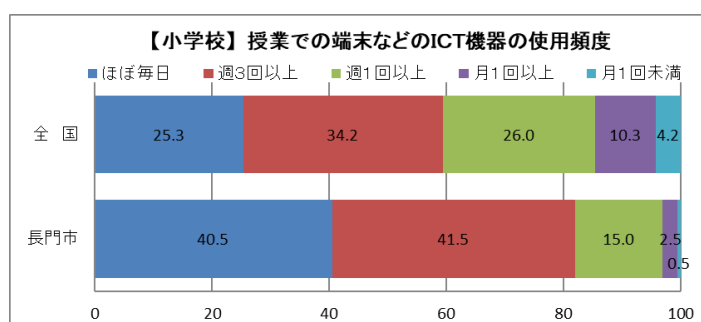
## (6) 学びに向かう姿勢・授業、ICTなど



- 授業において「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」と回答した児童の割合は、全国と比べて高い。
- 「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と回答した児童生徒の割合は、全国と比べて高い。
- 中学校において、「授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表している」と回答した生徒の割合は、全国と比べて低い。



- 小学校、中学校ともに、国語、算数・数学において、「勉強は好き」、「授業内容がよく分かる」と回答した児童生徒の割合は、全国と比べて高い。
- 小学校において、理科の勉強が好きと答えた児童の割合は、全国と比べて低い。



- 授業でほぼ毎日または週3回以上、P C・タブレットなどのI C T機器を使用すると回答した児童生徒の割合は、全国と比べて高い。

## 4 学力向上に向けた今年度の取組

### (1) 学校での組織的な取組の推進

- ・誤答分析を基にした学力課題の焦点化と解決の方策について、学校全体で共有し、「長門市授業づくりのポイント5」を基盤とした「全校で取り組む共通実践」を設定するなど、全校体制での学力向上を推進する。
- ・年間2回実施する市教委主催の「学力向上プラン検討会」において、市の課題やめざす授業の方向性を共有するとともに、各校のプランの見直しや改善を図り、授業改善を推進する。

### (2) 教員の授業力の向上

- ・年間5回以上の「児童生徒による授業評価」を基に、子どもの思いや願いに寄り添った、「わかる・できる」につながる楽しい授業づくりを推進する。
- ・身に付けさせたい資質・能力が身に付いたかどうか、教師も児童生徒も確認できるように、授業の「振り返り」で引き出したい言葉を念頭に授業を組み立てる。
- ・算数・数学科における知識・技能の確実な習得（概念的な意味理解）、国語科における語彙の獲得や正しい言葉の使い方等を継続的に指導する時間と場を工夫する。
- ・各教科における思考力・判断力・表現力（特に根拠を明確にして説明すること）の育成に重点を置いて、指導方法の工夫改善を推進する。
- ・学習の基盤となる情報活用能力の育成をめざし、授業における1人1台端末の効果的な活用を促進するとともに、教員のICT指導力の向上をめざし、研修や情報共有等を更に充実させる。

### (3) 学校・家庭・地域の連携力の強化

- ・学校運営協議会で学力向上に向けた課題の共有や課題解決の熟議を行うなど、地域との連携を図り、地域人材を生かした学力向上に取り組む。
- ・家庭との一層の連携により、家庭学習や読書習慣の定着を図る。また、県教委作成の「やまぐち学習支援プログラム」などを活用したり、平常時における1人1台端末の持ち帰り（週1回程度）を推進したりして、家庭学習の充実を図る。
- ・「学びや育ちのカリキュラム（学校・地域連携カリキュラム）」において、身に付けさせたい資質・能力を明確にし、地域との連携や小中連携を重視した学力向上の取組を推進する。

※児童生徒一人ひとりの確かな学力の定着と向上をめざして、学校担当指導主事が各校の伴走支援を行ったり、指導力向上のための研修会を実施したりするなど、学校の組織力・教員の授業力・家庭や地域との連携力の強化に努める。

■調査問題・正答例・結果の詳細等については、下記HPをご覧ください。

- ・ [国立教育政策研修所 教育課程研究センター「全国学力・学習状況調査」](#)
- ・ [山口県教育委員会 義務教育課「令和6年度 全国学力・学習状況調査結果について」](#)